

## 平成22年度「専修学校留学生総合支援プラン」成果報告書

事業名	留学生と日本人学生とのパートナーシップによる実践的就職支援プログラムの研究開発		
法人名	学校法人 鶴学園		
学校名	広島工業大学専門学校		
代表者	校長 田中 彰	担当者 連絡先	情報系学科長 吉本 恒雄 Tel 082-295-5111
<b>1. 事業の目的・概要等</b>			
<p>グローバル化社会が進展する中、優秀な人材確保のため留学生の受入が推進されている。しかし、留学生が日本文化・日本人の考え方及び商習慣等に対する理解が不足しているという問題が指摘されている。そこで、実践的な能力を備えた中堅技術者として育成し、円滑に企業へ就職させることを目的に、授業・実習及びインターンシップ、専門性の高い高度資格取得をさせる支援プログラムの研究開発を行う。なお、本事業では、学習効果を高めるために、特に専門学校生と留学生とがパートナーを組んで取り組む特色がある。</p> <p>また、各講座においては積極的に受講者を受け入れることにより事業の充実を図った。</p>			
<b>2. 事業の実施に関する項目</b>			
<b>①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）</b>			
<p>パートナーシップを組み、以下の講座やインターンシップなどを開講し実施した。受講者（留学生6名および日本人学生）の満足度は高く、概ね順調に進捗した。</p>			
<p>1 キャリアカウンセリング（12回、6月～2月、1回平均4時間） 留学生6名と日本人学生4名を対象に、就職活動全般について、自己分析・企業分析・エントリーシート作成・面接対策などを指導。個別指導には時間がかかるため、電子メールを使用して指導する試みも行った。</p>			
<p>2 ビジネスマナー講座（11回、6月～9月、1回平均4時間） 留学生6名と日本人学生5名を対象。留学生は企業で求められるビジネスマナー（“ほうれんそう”、敬語、電話対応、社内文書など）が身に付いていないため、ロールプレイングを主体に指導。日本人学生は主にサポートに回った。</p>			
<p>3 インターンシップ 3社（2社5日間、1社半日） 日本の企業での働き方、規則、仕事の流れなどを体験し理解する。時間を守る、企業理念、チームワークのとり方などを学ぶ機会となった。</p> <p style="margin-left: 20px;">①電気機器製造会社1社（5日間、留学生2名、日本人学生1名） ②情報系企業1社（5日間、留学生2名、日本人学生2名） ③環境調査会社1社（半日間、留学生1名、日本人学生1名）</p>			
<p>4 海外進出日本企業の現状（1回、1時間） 海外に進出している会社の現状についての講演および質疑応答。特に広島県から海外に進出している企業、また留学生の実態など、データを用いた説明を受け現状を知ることができた。留学生5名と日本人学生3名が受講。</p>			
<p>5 異文化コミュニケーション（3回、9月～11月、1回2時間） 留学生と日本人とのコミュニケーションの機会を多く持つことで、異文化コミュニケーション力を高めることができる。そこで学校で取り組んでいる、専門学校生・大学生・一般社会人など約</p>			

20名によるワークショップ形式の勉強会に参加。留学生の取り組みについて発表し意見交換を行った。留学生も日本人も大いに異文化コミュニケーションを図ることができた。

6 資格取得講座（コミュニケーション検定初級）（7回、9月～11月、1回平均4時間）

留学生にとって、日本の資格の取得は大きなアドバンテージとなる。留学生6名全員が受験に向けて学習した。結果、内4名が合格でき、大きな励みとなった。

7 ホームステイ（1泊2日、1月、留学生2名）

今回参加した留学生は2名で、日本の家庭で過ごした経験がない。ホストファミリーでは、日本料理やベトナム料理などを作って、日本の家庭の過ごし方を体験した。留学生にとって貴重な体験となった。

8 国際交流（1日、2月6日）

ベトナムの旧正月を祝う「テト」の祭りが行われ、約150名の中に留学生6名と日本人学生2名が参加。留学生は裏方でベトナム料理作りや舞台での演芸で活躍。日本人学生も多くのベトナム留学生とのコミュニケーションを図る機会となった。

## ②受講者の募集方法（手法・期間・効果）

### 【手法】

留学生の募集に当たっては、本校に姉妹校があること、またアジアの中での成長が期待されていることから、ベトナムからの留学生を対象とした。

事業開始時点では、ベトナムからの留学生がいなかったことから、広島ベトナム協会に協力を要請し、広島県内の大学生等を対象に募集を行った。また日本人学生は、本校専門学校の学生で海外交流に関心のある者に参加を呼びかけた。

### 【期間】

平成22年5月～6月の約1ヶ月

### 【効果】

ベトナム人留学生6名、日本人学生は当初4名、講座全体を通じて延べ10名が参加。

## ③受講者の状況

受講者は、ベトナム人留学生6名、日本人学生10名であり、その内訳・属性は下記のとおりである。

### 【ベトナム人留学生】

工業系大学 機械系 卒業生 男子 1名	工業系大学 機械系 3年 男子 1名	
工業系大学 デザイン系 2年 女子 2名	文系大学 人間環境系 2年 男子 1名	
国立大学 経済学部 2年 男子 1名		以上6名

### 【日本人学生】

機械系 2年 男子 1名	電気系 1年 男子 1名	
メディア系 研究生 女子 1名	メディア系 2年 女子 1名	
情報系 3年 男子 1名	情報系 2年 女子 1名	
情報系 2年 男子 1名	情報系 1年 男子 2名	
情報系 1年 女子 1名		以上10名

受講者の満足度は下記のとおりである。留学生は大変満足と感じており、日本人学生は、最後まで参加した学生は満足、一部講座のみ参加した学生は普通または不満足の結果になった。

インターンシップの受入れ先企業は、ベトナム人留学生の気質に触れることができた満足の結果を得た。また、ホームステイ先の家庭では、大変満足とのヒアリング回答を得た。

◆講座を受講した留学生および日本人学生

【ベトナム人留学生】

大変満足：6名（100%）

【日本人学生】

満足：3名（30%）、普通：6名（60%）、不満：1名（10%）

◆インターンシップ先企業（3社）、ホームステイ（2家族）の満足度は次のとおり。

【企業担当者】

満足：3社（100%）

【ホームステイ】

大変満足：2家族（100%）

### ⑤受講後の状況（修了者数・就職率）

ベトナム人留学生は全員講座を修了した。日本人学生は延べ10名中3名が修了した。日本人学生は所属学科の資格試験対応や学校授業のインターンシップなどの関係から、講座の一部に参加しただけの学生が多く修了者は3名にとどまった。

また、本研究は留学生の就職支援を目的としたが、就職対象者の参加は2名であった。この2名のうち1名が、講座での学習を通じ内定を得た。

【ベトナム人留学生】

6名参加、6名修了（修了率100%）

【日本人学生】

10名参加、3名修了（修了率30%）

【ベトナム人留学生就職率】

対象者2名（既卒者1名、大学3年生1名）中、既卒者1名が内定。

## 3. 事業の評価に関する項目

### ①当初目的の達成状況

実施した講座について、学生の事前と事後の到達度を10点満点で自己評価した結果をヒアリングした。ベトナム人留学生と日本人学生のそれぞれの主観的な得点を単純平均で求めて示している。いずれの講座も事前に比べて事後の評価が高くなっており、実施の成果が見られた。また、学生からの意見を紹介している。

#### 1 キャリアカウンセリング

学生（参加数） \ 到達度	事前	事後
ベトナム人留学生（6名）	3.0点	8.3点
日本人学生（4名）	3.0点	8.0点

留学生：自分のやりたい仕事の道を見つけた。自己PR、履歴書が書けるようになった。日本語力がアップ、発表方法を習得、考え方が変わった、就活方法を学んだ。考え方がしっかりするようになった。日本での就職活動経験がなかったが、大変参考になった。

#### 2 ビジネスマナー講座

学生（参加数） \ 到達度	事前	事後
ベトナム人留学生（6名）	4.0点	7.8点
日本人学生（5名）	5.4点	8.0点

留学生：お辞儀、ほうれんそう、基本マナー、敬語・敬称などを学んだ。また理論でなく実践的にマナーを学ぶことができた。

### 3 インターンシップ<到達度>

学生 (参加数) \ 到達度	事前	事後
ベトナム人留学生 (5名)	3.3点	7.3点
日本人学生 (4名)	4.5点	6.5点

留学生：時間厳守、準備、朝礼、ミーティング、ほうれんそう、グループ活動 仕事の流れ、自分の能力などを知ることができた。

### 4 海外進出日本企業の現状

学生 (参加数) \ 到達度	事前	事後
ベトナム人留学生 (5名)	4.5点	7.5点
日本人学生 (3名)	3.0点	8.0点

留学生：企業や留学生の実態をデータを用いて聞いた。広島で働いている外国人の様子が分かった。広島県の企業の動向が分かった。

### 5 異文化コミュニケーション

学生 (参加数) \ 到達度	事前	事後
ベトナム人留学生 (6名)	4.3点	8.3点
日本人学生 (4名)	5.0点	8.0点

留学生：ベトナムのことを理解してもらった。社会人と意見交換できた。日本語の勉強が必要。

### 6 資格取得講座 (コミュニケーション検定)

学生 (参加数) \ 到達度	事前	事後
ベトナム人留学生 (6名)	3.8点	7.2点
日本人学生 (4名)	4.0点	7.7点

留学生：検定に合格でき大変嬉しい。面接方法、マナー、会話の基本を学んだ。試験のやりかたが分かった。不合格だったが、再チャレンジしたい。

### 7 ホームステイ

ホームステイは、ベトナム人留学生2名が参加した。

学生 (参加数) \ 到達度	事前	事後
ベトナム人留学生 (2名)	3.0点	9.0点

留学生：日本の料理を作ったり、ベトナム料理を作ったりした。日本の家庭を体験することができた。家族からは、非常に暖かい歓迎を受けもう少し期間が長いと良いと思った。

### 8 国際交流

国際交流は、ベトナムの旧正月 (テト) のお祭りに参加した。約 150 名の参加者の中で、留学生は裏方の仕事や舞台でのイベントの演出などを担っていた。

学生 (参加数)	事前	事後
日本人学生 (2名)	5.0点	9.0点

日本人学生：ベトナム文化を肌で感じる事ができた。たくさんのベトナム人と話せた。グローバルな世界を、身をもって感じた。

## ②事業の成果及び改善点

主な成果は下記のとおり。

- 1 ベトナム人留学生1名が企業に内定することができた。
- 2 ビジネスマナーの基本を学ぶ機会となった。
- 3 コミュニケーション検定の資格を取得できた。
- 4 インターンシップで日本企業での働き方を学ぶ貴重な体験ができた。
- 5 ホームステイで日本の家庭を知ることができた。
- 6 異文化コミュニケーションでベトナムを知ってもらうことができた。
- 7 国際交流で、日本人学生がグローバル感覚を養う機会となった。
- 8 キャリアカウンセリングによって、ベトナム人留学生の就職活動全体のアプローチ方法（時期・自己分析・企業分析・目標設定・自己PR方法・面接対応・履歴書や志望動機の書き方など）の支援を行うことができた。
- 9 パートナーシップによって、各講座を効果的に開講・実施できた。
- 10 パートナーがお互いに刺激を与え合うことで、講座の相乗効果が見られた。

主な改善点は下記のとおり。

- 1 パートナーを長期にわたって固定的に維持することができなかったが、講座が切り替わるタイミングでパートナーの入れ替えなど柔軟な仕組みを検討したい。
- 2 キャリアカウンセリングを実施することで、留学生の日本企業への就職に対する目的意識が十分でないことが判明し、今回はこの点を含めカウンセリングを充実したい。
- 3 参加学生からは、スポーツや楽しいイベントを期待する声があり、検討したい。
- 4 フレームワークの概要を策定したが、今回は全体にわたって検証したい。
- 5 インターンシップやホームステイの受け入れ態勢を充実する。
- 6 日本人学生の参加を促し、パートナーが組めるように調整したい。

### ③次年度以降における課題・展開

#### 【課題】

パートナーシップを組むことで、講座の成果を上げることができたが、パートナーを固定的に機能させることの難しさが判明した。次年度は、入学してくる留学生（2名）と今回参加してくれた留学生など、また日本人学生の参加を促して柔軟なパートナーシップ制を検討し運営することとしたい。

また、企業連携を強め、企業が留学生に求める人材要件を明確にし、支援体制を充実したい。

#### 【展開】

- 1 留学前のキャリアデザイン教育を展開。
- 2 キャリアカウンセリングの充実。
- 3 パートナーシップの柔軟な運営。
- 4 ベトナムおよびアジア人材について深い知識を持つコンサルタント等との協力連携。
- 5 日本語 e-Learning などを作成し、日本語学習（N1 レベル）を支援。
- 6 留学生の採用を行なう企業との連携を充実。

### ④成果の普及

成果については企業また学校関係者等を対象に、広く発表・報告を行い、開発した教材は、関係方面への配布等を行い、普及を図る。